

外食店舗の密度は肥満の罹患率と関連しない

Mazidi M *et al.* *Am J Clin Nutr.* 2017;106:603-613.

【背景】アメリカでの肥満の流行は、ファストフード(FFRs)とレストラン(FERs)両方の店舗数と一人前の分量の増大、外食による摂取エネルギーの増加を反映しており、外食産業の流行に一因があるという者もいる。もしこれが本当ならば、住人1人当たりのファストフードとレストランの店舗数の増加が肥満の罹患率を増やしていることが予測される。

【目的】FFRs、FSRsと肥満の罹患率に関連があるか評価した。また、外食施設で摂取するエネルギーの割合を算出した。

【方法】生態学的な横断研究では郡単位のデータを使用し、2012年のアメリカ合衆国本土での肥満の罹患率と、同年のそれぞれの郡の住人1人あたりのFFRsとFSRs密度との関係を調べた。肥満の罹患率とFFRs、FSRsの密度との関連を調べるために、交絡因子を調整して多重線形回帰分析を行った。

【結果】予想に反して、肥満の罹患率はFFRs、FSRsの両方と有意な高い負の相関

があった ($R^2=0.195$)。これは、FFRsとFSRの店舗数が、所得が多く学歴の高い住人のいる地域により多いことが主な理由であった。これらの要因および社会経済的変数を加えて正規化すると、レストランの密度と肥満の間に関連はなくなった ($R^2=0.008$)。総摂取エネルギーに占めるFFRsとFSRsからの摂取エネルギーの割合の平均はわずか15.9% (最大22.6%) であった。

【結論】FFRsとFSRsの密度のはアメリカの肥満の罹患率に関連していなかった。また、これらの店舗で摂取されるエネルギーは総摂取エネルギーの20%未満だった。この結果は、肥満の流行にどう取り組んでいくかという政策決定する際の材料となるだろう。

(2018年4月24日 博士後期課程3年 奥村友香)